

## 【小論文】

### 【出題趣旨】

プロフェッショナルとは何か、これからのプロフェッショナルはいかにあるべきかという問題について論じ、「省察的实践家」という新しい専門家モデルを提唱した米国の哲学者ドナルド・ショーンの著書『省察的实践とは何か—プロフェッショナルの行為と思考』（邦訳2007年）を素材として、受験生にこれからの法曹人材像のあるべき姿について考えさせ、論述させる問題である。

問題は4つの設問からなる。設問1及び2は、長文読解力をみる問題であって、それぞれ「技術的合理性」とは何か、従来のタイプの専門家はだれに対して説明責任を負っていると著者は考えているかを問う選択式の問題である。設問3は、長文読解力及び文章表現力をみる問題であって、「伝統的な契約」と「省察的な契約」を対比的に記述させる問題である。設問4は、設問1, 2及び3の解答を踏まえて、受験生自身にとっての理想の法曹人材像を提示させ、その理想像に近づくために自分は何をなすべきと考えているかを論述させる問題である。

### 【採点基準】

設問1及び2は、それぞれ5者択一の問題である。資料（著書からの引用文）を丁寧に読めば、正しい選択肢を選ぶことができる問題である。設問3は、著者が言う「伝統的な契約」と「省察的な契約」を正しく理解できているか、そして両者を対比的に説明できているかが採点のポイントである。設問4は、ただ1つの正解がある問題ではないが、自分の意見を明確に表現する能力、特に論理性、客観性、バランス感覚等を評価の対象としている。実践を通じて深く考えることの大切さなど、著書の中で述べられていることにも触れながら、自分の意見を述べている答案は特に加点される。